

第 51 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:平成 28 年 9 月 28 日 16:00～

開催場所:東京都港区北青山 3-1-2 USEN 本社

**■出席者**

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

笈川 誠 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

田村 代表取締役社長

大田 取締役常務執行役員

山下(光) コンテンツプロデュース統括部長

松本 コンテンツプロデュース統括部 編成部長

村田 コンテンツプロデュース統括部 制作部長

西田井 コンテンツプロデュース統括部 制作部 制作 1 課長

山下(幹) コンテンツプロデュース統括部 制作部 制作 2 課長

遠藤 番組制作ディレクター

小島 番組制作ディレクター

岩崎 スタジオ制作ディレクター

沖 広報部長

【番組審議会事務局:薬師寺、大口、森角】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1) 秋の番組改編について

2016年10月3日、秋の番組改編を実施。「D-18 モダン・ジャズ・ピアノ」、「B-59 コーヒー・ジャズ」、「D-54 チルアウト・ミュージック」、「I-18 ネオ・サーフ・ミュージック」の4つの新番組を投入する他、2番組をリニューアルし、4番組を終了させた。

(2) ハロウィン BGM の放送について

年々盛り上がりを増すハロウィン商戦に対応して、今年は昨年より1番組増加させ、全3番組の特設番組を放送している。

(3) 追悼番組の放送について

2016年7月7日に逝去された永六輔氏を偲び、8月1日～31日までの1ヵ月間、「A-57 USEN MONTHLY SPECIAL」において「永六輔 追悼特別番組」を放送した。

(4) 『With Music』発行について

2016年9月、会報誌『With Music vol. 37(2016年10～12月号)』を発行し、業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

和食店をターゲットにした BGM 番組について

【対象番組】

- A-09 美食空間向けジャズ
- A-14 お琴の調べ
- 和 JAZZ (番組化プロジェクト)
- 和楽アンサンブル (番組化プロジェクト)

3. 番組審議

【放送局】

今回は和食店をターゲットに想定し、「A-09 美食空間向けジャズ」、「A-14 お琴の調べ」の2番組と、まだ番組化はされていないが、来るインバウンド需要に向けて2014年からオリジナル制作している「和 JAZZ」、「和楽アンサンブル」の2プロジェクトの音源について審議して頂きたい。なお、「和 JAZZ」と「和楽アンサンブル」は昨年のミラノ国際博覧会・日本館のレストランエリアのBGMとして採用されたものだ。

【審議委員】

「A-09 美食空間向けジャズ」は最初、なぜソロなのかと思ったが、(高級和食店の静かな空間に調和するよという)番組コンセプトと選曲の経緯を聞いて納得した。良い曲を選んでいるので本物なんだなと思った。素晴らしいということ为前提として多少気になった点は、時代による音質のバラつきが結構あり、それがあたたかく懐かしい音ではあるが、古い感じもしたので、もう少し BGM らしく揃えた方が良いのではないかという点だ。また、ソロだから少し緊張感が足りないのでは、ソロ以外の楽曲を入れたほうが良いのではとも思ったが、これだけの支持を得ているということは、そこは自分の感覚

が違うのだろう。

“照明がやわらかくて少し暗めでメニューが筆文字で書かれているような居酒屋”の多くがジャズを流すようになり、ジャズファンには軽薄な BGM と受け取られるのではという危惧があったが、ジャズの本物の演奏が厳選されているので良い音楽として聴けた。BGM としては“楽曲が立つ”ということとのバランスが少し心配だったが、この番組がしっかり支持されているということは、お店やお客様はちゃんと聴く耳を持っているのだと感心し(そのような心配をしたことを)反省した。

【審議委員】

数、内容、クオリティも含めて、オリジナル楽曲をこんなに録っていることに驚いた。

「A-14 お琴の調べ」を聴くと、少し冗談っぽく言えば“昔ながらのラウンジ風の喫茶店でお正月”というイメージがあるのが琴だと感じる。オリジナル楽曲でこういう華やかさが出せていることに驚いた。また、これは狙いだろうから悪いことではないが、バラつきがなく 1 曲 1 曲の個性は無い。二重奏は、和の楽器に共通することだと思うが、全体的にパーカッシブな、弾くような曲があるにも関わらず、BGM として上手くおさまっているのが不思議な気がした。これらオリジナル楽曲は幅を広げていった方が良いのか、同じ曲を繰り返し流す方がお客様、お店のニーズに合うのか、そこは気になるところだ。

「和 JAZZ」と「和楽アンサンブル」については、個人的に最も聴いたのは「和 JAZZ」だったが、かつこ良くてウキウキした。今の時代、ただの BGM というだけでは、飲みの席では良くて、食事の場ではもの足りないのではと思った。

9 月から、日本の四季折々の情景を和テイストの音楽とダンス、アニメで表現するインバウンド向けイベントが行われていて、そこではもっと派手な音楽なども使われているが、そこに入ってきて良さそうな楽曲もあった。インバウンド向けでも、落ち着いたお店だけでなく、クラブなどいろいろと使い道があるように思った。

「A-09 お琴の調べ」はやはり外国人にとって日本的なのだろうと感じた。「和楽アンサンブル」は、最初は和が立ち過ぎて嫌かなと思ったが、2 回ぐらい聴くと、(BGM として聴きながら)普通に家事が出来る。真剣に聴こうとすると和を狙いすぎじゃないかと思ったが、何かをしながら聴くと気にならなくなった。

今回の課題番組がターゲットにしている和食店とは、少し高級感のある店を指していると思うが、今インバウンドで増えているのは日本的な安いお店だ。そういう格安店にこういう音楽が生きるかどうか、外食トレンドに精通する方の意見も聞きたい。

【審議委員】

「A-09 美食空間向けジャズ」は、ここまで細心に作っているということを知って感激した。私は事務所では「A-09 美食空間向けジャズ」と「A-13 ジャズ・スタンダード」を聴くことが多い。先程、“曲の段差”のようなものがあると言われていたが、私はスルーで聴けたのが「A-09 美食空間向けジャズ」だった。ジャズは世界観がすごく出てくるので、“スタンダード(ジャズ)の世界観”が、少し“モダン”になっただけでもイメージが違ってくるのだが、この番組はミキシングが非常に上手いと思った。ピアノとギターの比率など、そこまで考えて制作しているのかと驚いた。先日、「TOKYO JAZZ FESTIVAL」に行ったのだが、昼公演と夜公演を通しで見ても、全然疲れなかった。途中途中で休憩を入れたり、コンテンツを上手く作っているなどと思った。日本の若手が出たり、トリには大物が出るなど、いろいろと抑揚はあれど「ジャズは組み立てやすいんだ」と思った。和食店ではジャズの人気が高いという話だが、もしかしたら「心地いい」ことは、結構組み立てもしやすいし、お客さんも聴きやすいのかなと思った。

気になったのは「美食空間向け」というタイトルだ。利用者はタイトルを見て、番組の内容をイメージする。飲食店のオーナー、特に和食をやってる人は、ものすごく“ひねくれた人”が多い。フードコートは数多くあるが、和食だけのフードコ

ートは、日本中どこにも無い。それは、料理人同士の仲が悪いからで、例えば「特定の料理学校の出身の OB だけ集めると上手くいく」などという冗談のような話があったりする。そういう人たちに「美食空間向け」などと言ったら、逆に(番組セレクトの選択肢から)すぐに外す人が結構いると思う。和食の料理人は、“短気だが、これと決めたらずっとそれを聴く人が多い”というイメージだ。そういうことを考えれば、タイトルを変えるということも面白いのではないか。

【放送局】

例えば、どういうタイトルが良いだろうか。

【審議委員】

シンプルに「ジャズ・スタンダード」などは、間違いなくかける人は多いと思う。ジャズにおいては、シンプルで基本的なタイトルが良いと思う。“ひねくれている人”にはストレートに行った方が良い。

【放送局】

ジャズの“ひねくれている”部分が、良いところでもあるので、そういう方にこそ使ってもらえたら嬉しい。

【審議委員】

「A-14 お琴の調べ」はとても良いと思った。外国人に絶対にウケるだろう。美容室などは一人で行くが、飲食店は一人で行くことはあまりない。もちろん一人で行く飲食店というのものもあるが、だいたいテレビがかかっているような店舗が多い。飲食店で一人になる空間といえばトイレだが、青山のある和食店では、トイレで琴が非常に効果的にかかっている。その和食店は周辺ホテルのコンシェルジュがよく薦めるような店で、私の知る限りおそらく東京で最も外国人比率が高い和食店ではないだろうか。客単価はそれほど高くないが、いつ行っても7~8割は外国人客で、特に白人の方が多い。その店の飲食フロアは非常に賑やかなので、BGM はかかっているもほぼ聴こえない状態だが、酔っ払ってトイレに行くと結構な音量で琴が流れていて、それを聴くと、「ああ、今オレは日本にいるんだ」とふっと実感する。

【放送局】

なるほど。

【審議委員】

「和 JAZZ」と「和楽アンサンブル」の2プロジェクトもとても良いと思う。アジアの高級ホテルに行くと客室で胡弓の音色などがずっと流れていたりするが、それを聴くとやはりお客さんは「アジアに来たな」と感じるものだ。今回の「和楽アンサンブル」の胡弓などは殊に趣を感じられた。「和 JAZZ」は TV 番組的な感じで、少しドラマチック過ぎるように感じた。番組内容の説明の際に「うっすら流す」と言っていたが、それであれば抑揚がある方が良いのかも知れないが…

【放送局】

曲としての作り込みが濃いということか。

【審議委員】

そう言えるだろう。TV 番組のオープニングかエンディング曲のような感じがしたので、BGM としてはややトゥーマッチか

など思った。もう少しフラットに、時折楽器のストレートな音が聴こえてくる方がくっとうってくるような感じがした。

【審議委員】

ここまでの話を聞いていて、制作というのはまるで暗闇の中で針に糸を通すくらい大変だということがわかった。それを前提として話したい。制作者が、「自分が面白いと思った番組が面白いはずだ」という傲慢な態度で制作すると、それがウケる時もあればウケない時もある。USEN の BGM の場合、お客様であるお店があり、そこでお店の方や(店にいらっしゃる)お客様がどう聴くかを想定しながら制作するということになるが、それは大変なことだと思う。そこで、逆説的になるが、JUJUさんが今度出すアルバム「スナック JUJU～夜の Request～」を紹介したい。内容は昭和の歌謡曲をJUJUさんがカバーするというものだ。昭和の歌謡曲と聞いた時、私は「ブルーライトヨコハマ」や「人形の家」などをパッとイメージするが、今回のアルバムの収録曲は竹内まりやさんの「駅」、来生たかおさんの「Goodbye Day」、小林明子さんの「恋におちて」、他に「恋人よ」、「シルエット・ロマンス」、「つぐない」、「DESIRE -情熱-」、「夏をあきらめて」、「二人でお酒を」、「まちぶせ」、「桃色吐息」、「夢の途中」、「ラヴ・イズ・オーヴァー」、「六本木心中」、「ロンリー・チャップリン」…という並びで、私からしたら「昭和歌謡じゃないじゃないか」という感じがした。JUJUさんもスナックが好きだと言うが、私が考える昭和歌謡と、彼女が考える昭和歌謡が違うのだ。私からしたら今回のアルバム収録曲は昭和歌謡ではなくJ-POPのスタンダードのように思えたが、これは全国のスナックのママにアンケートを取った結果だと言う。私の行きつけのスナックのママは60歳くらいだが、今のママは30代後半～40代頭といったところ。そうすると、私がイメージしたものは違ってくるわけだ。このように、こちらがイメージしたものとお客様がイメージしたものが違うということは往々にして起こり得る。常に、向こうの人たち(サービスを利用しているお客様)は果たしてどうなんだろうと考えることが肝要だ。今回の新しいプロジェクト「和 JAZZ」と「和楽アンサンブル」でも考えてみるとどうだろう。いかにも日本的な情緒を感じさせるというこちらの意図とユーザーのニーズが果たしてピッタリ合っているか、マーケティングから考えていくべきではないだろうか。暗闇の中ではなく、薄ぼんやりであっても光のある中で糸を通す方が楽なのではないかと感じた。今回の番組やプロジェクトは内容的には素晴らしいので、今回紹介したJUJUさんのような逆転の発想を取り入れるのもありなのではないかと思う。

【審議委員】

いま音楽療法学会では、寝たきりの高齢者を増やさないために音楽をどう活用するかが一番大きなテーマとなっているが、その現場でリクエストされるのはもう昔のような「赤とんぼ」や「ふるさと」ではない。ビートルズが武道館で公演をしてからもう半世紀…50年が経つ。当時20歳だった人が今はもう老人ホームに入っていたりするので、リクエストもビートルズやウォーカー・ブラザーズなど色々とおっしゃる方が出てきている。本当に変わってきているんだと実感している。受け手のことを知ることは大事だ。

今回の課題の中で私が一番面白くて好きだと思ったのは「A-09 美食空間向けジャズ」だった。年代的にも私が一番聴いていたところだし、知っている曲、好きなアーティストも出てくるので。こういう感じだったら、レニー・トリスターノやセロニアス・モンク、ギターだとタル・ファーロウやバーニー・ケッセルなども出てくるのかな…などと想像しながら聴いた。ただ、唯一気になったのはレコーディングのクオリティの違いだ。どうしてもクリアさが違うので、このあたり(の楽曲)を使うのであれば、もしかしたら今の時代にリミックスしても許されるのではないかと…つまり、音のクリア度を上げて許されるのではないかと考えたことも考えながら聴いた。

「A-14 お琴の調べ」と「和 JAZZ」、「和楽アンサンブル」だが、特に「和楽アンサンブル」に関してはなんだか“国際博覧会っぽい”という感じがした。ひそやかにかけているというよりも、ボリュームがある感じで、そういう場所に提供すると良いと思った。国際的な場で一番使いやすく、使用機会が多そうなのは「和 JAZZ」だ。売り込んだら良いのではないかと。

「A-14 お琴の調べ」もとても華やかで素晴らしく、楽しませてもらった。ただ、これらの USEN オリジナル制作楽曲は USEN の財産になるのかどうかというところが気になった。作曲は誰がしているのか、アレンジは誰がしているのか、譜面の取扱いはどうするのか…著作権はどうなるのか。また、今後の活かし方があるのかどうか。USEN が発注して作ったものだから、著作権管理は USEN にあつて良いと思うが、せっかく作った楽曲がここで使うだけで消えていってしまうのであれば、それはとてももったいないと思う。

【放送局】

USEN オリジナル制作のほとんどの楽曲は JASRAC に登録しているので、放送で使用する際の使用料は著作権者にきちんと分配されている。一方で、USEN の BGM サービスのために作った音源を今後どう活かしていくかは我々の大きなテーマだと思っている。

【審議委員】

ここで作った楽曲を他でも演奏できるかも知れない。

【放送局】

おっしゃる通りだ。二次利用、三次利用的などところも考えて行きたいと思っている。

今日も様々な意見を頂いた。「A-09 美食空間向けジャズ」はお褒め頂くことも多かったが、音源のクオリティのバラつきについては BGM としては課題となる部分なので、是正できるかどうか検討していきたい。「A-14 お琴の調べ」については、BGM ではあるものの「一曲一曲の個性がなく、楽曲の違いがわからない」という指摘があったが、そこをどうしていくかも課題だろう。USEN オリジナル楽曲の価値をいかに高めていくかも課題だ。

【審議委員】

SHAZAM で探した時にその曲が何だか絶対出ないが、その点がクリアできたならもっと USEN は強くなる。

【放送局】

なるほど。楽曲をいかにプロモーションできるかということか。それも考えて行きたい。また、我々としては「和 JAZZ」など新しく取組んでいる企画が、これからのインバウンド需要に通用するかどうか少し気かりではあったが、「売り込んでいけば良い」というような言葉も頂き、自信を持った。ここは新たにチャレンジできる領域だと再認識した。「和楽アンサンブル」に関しては少し前衛的な部分もあるかも知れないが、音源を仕入れて選曲するばかりではなく、今後もオリジナル楽曲を制作できる機能を持ちながら、試行錯誤して新たなものを作って行きたいと思う。